

# 令和7年度 学校評価【計画書】報告書】加賀市立錦城小学校 校長 吉野 亨 印

<b>学校教育ビジョン</b> 「自ら考え、協働できる児童の育成」～自分も人も笑顔になれる学校をみんなでつくる～										
<b>・目指す児童像</b> 自分も人も笑顔になるために 協働できる子 <b>・目指す教師像</b> 児童のやる気を高められる教師 <b>・基本方針</b> 学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成 ②豊かな心の育成 ③健やかな体の育成 の取組を組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。										

評価の項目	今年度の重点目標	具体的な取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎的な学力をつけるために組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して、安定的な学力向上のシステムを確立する。	学力向上をめざした持続的な組織体制の強化のために、学校研究との連携を図りながら授業改善を進めるとともに、学力の定着度を図るために見取りを定める。	授業づくり・学力向上部教務主任	昨年度は基礎・基本の定着を図った。組織的・協働的に各部で取り組み、おおむね目標は達成できた。さらに子どもの力を伸ばすためにステップアップを図る。	【努力指標】全教職員が授業改善に取り組むとともに、授業での学びを確実なものにする。	国語・社会・算数・理科における単元末テストの平均点が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。			
②生徒指導 ※いじめの未然防止	子どもたちが毎日笑顔で生活できる学校を作る。	・全校を巻き込んだ児童会活動の充実を図る。 ・月に1度、教師が児童の良いところを見つけて示す「ほめほめweek」を実施し、児童を肯定的に見る取組を行う。 ・週に1度、スマイルトークタイムを実施し、自分の考えを誰とでも気軽に話すことができる友達関係をつくる。上記の3点を推進することで、いじめの未然防止につなげる。	学びの基盤部生徒指導主事	・昨年度の取組の成果として、教職員が児童を肯定する雰囲気が職員全体に広がってきている。今年度も「ほめほめweek」を実施し、この雰囲気を新しい職員にも浸透させていきたい。 ・教師と児童の繩の関係性は好転してきたが、児童と土の縁のつながりが薄い現状がある。児童同士が会話をする機会を増やし、誰とでも気軽に話す関係をつけていきたい。	【満足度指標】児童が学校生活を楽しいと感じている。	児童生活アンケートで、「学校が楽しい」「どちらかといえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 毎月、児童にアンケートを実施する。			
③キャリア教育・進路指導	みんなの笑顔のために、働くことや責任を果たすことで、達成感を感じさせたり、仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで、自己肯定感を高める。	係活動や委員会では、めあてをもたらし、さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで、責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。	児童会担当	前年度アンケート結果より、自ら活動等に参加できていると回答した児童の割合が多かった。委員会ごとにイベントも充実していた。課題として、他の委員会にイベントに自ら参加する児童が少なかった。	【成果指標】みんなの笑顔のために、進んで係活動や委員会に参加する児童が増えてきている。	みんなの笑顔のために、それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
④保健管理	学校生活のあらゆる場面で姿勢を意識させ、成長期に必要な健やかな発達を促すために、正しい姿勢を心がけようとする児童を育成する。	正しい姿勢の保持について、啓発し、適宜指導を行う。また、正しい姿勢を保持するために、体幹を鍛える運動等、教育活動全体を取り組む。	保健主事	本校男子児童において、側弯症疑い及び継続観察者が増加している。また、授業中に姿勢の保持が難しい児童がいる。	【成果指標】正しい姿勢をしようと心がけている児童が増加している。	児童アンケートで、「正しい姿勢をしようと心がけている」と答える児童の割合が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
⑤安全管理	校舎内外における安全教育を計画的に行い、児童自ら、自分の命を守ることができる力を育成する。	学校安全教育計画に基づいた指導や避難訓練時の指導を通して、安全に気をつけて行動する児童の意識を高める。	教頭	安全教育計画に基づいた指導や訓練を行っているが、振り返りや事後指導が不十分であり、児童の意識の変容について把握できていない。	【成果指標】自分で自分の命を守ることができる力がついてきたと実感している児童が増えている。	児童アンケートで、「安全指導や訓練を通して、自分で自分の命を守る行動ができる」と答える児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童にアンケートを実施する。			
⑥特別支援教育	児童一人一人のニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善または克服して児童が笑顔になるために適切な指導や必要な支援を行う。	児童のグロースマインドセットを高めるために、UDLを意識した授業を行うとともに、支援を要する児童の困り感に応じた指導を工夫する。ICTを活用したUDLを進める。	特別支援教育コーディネーター	児童の困り感を早期に捉え、気づき票から実態把握している。支援委員会を開き、方針の決定・共通理解をしてきた。担任は学期ごとに計画評議し、支援に取り組んできている。	【満足度指標】困り感のある児童も含めて児童が「やればできると思うことが増えた」と感じている。	UDLの実践、困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善により児童アンケートで「やればできると思うことが増えた」と答えた児童の割合が、 A 80%以上である。 B 70%以上である。 C 60%以上である。 D 60%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に児童アンケートを実施する。			
⑦組織運営・業務改善	教職員が笑顔で子どもと向き合い、教材研究や研修の時間を確保し、自ら考え協働できる自律した学びで育成するするに注力することができる学校づくりを目指す。	主任層と連携し、チームとして組織化・協働化された学校運営を行い、仕事の平準化、業務の削減を図り、教材研究や研修の時間を確保し、教職員が笑顔で子どもと向き合う時間を増やす。	教頭	主任層が連携し、チームとして組織化・協働化することの大切さや、仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えていく。	【満足度指標】自ら考え協働できる自律した仕事の平準化、業務の削減など意識している職員が増えていく。	教材研究や研修の時間を確保できていると感じている職員が、 A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			
⑧研究	自律した学びの育成に向けて、自己調整力を高めた「ふり返り」を書かせるための効果的な手立てを検討する。	・研究全体会を定期的に開き、各教諭の実践を交流する中で、より良い実践を研究していく。 ・研究主任を中心に実践を共有していくことで、学校全体で研究を推進していく風土を醸成していく。	授業づくり・学力向上部研究主任若プロ担当	子どもに委ねる時間が授業の中で増えてきている。だが「自分の考えや思いを発表したり、文字で書いたりして表現できましたか」という児童アンケートでは、肯定的な回答をしている児童数が11項目で最も少なかった(81%)。	【努力指標】研究全体会、整理会などで話し合われたことを共通理解し、研究主題達成に向けよりよい実践に取り組んでいる。	共通理解のもと授業改善に A 十分に取り組んだ B どちらかといふと取り組んだ C どちらかといふと取り組んでいない D 取り組んでいない	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			
⑨保護者、地域との連携	PTA行事や錦城キッズフェスタを通して、家庭・地域との連携を図り、開かれた学校づくりを目指す。	計画的に地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタを行う。	教頭	地域・保護者と連携を図りながら、PTA行事や錦城キッズフェスタ等を通して、開かれた学校となり、家庭・地域と連携している。	【満足度指標】PTA活動や錦城キッズフェスタ等を通して、学校・家庭・地域と連携を図ることができたと回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	保護者アンケートで、「PTA行事や錦城キッズフェスタ等を通して、学校・家庭・地域と連携を図ることができた」と回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に保護者アンケートを実施する。			
⑩教育環境整備	学習に必要な教材や学習環境の整備を図る。	職員作業を通して学習環境・教材整備に努める。	総務部予算委員会	教材・教具の使い方や整理が不十分な状況が見られる。	【満足度指標】教材や教具の管理や整理整頓がされている。	教職員アンケートで、「教材・教具の管理と環境整備に努めるができた。」と回答した割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1.2学期末に教職員にアンケートを実施する。			

学校関係者評価	
---------	--